

熊 本 大 学 整 形 外 科 専 門 研 修 プ ロ グ ラ ム

1. プログラムの概要・特徴

整形外科診療は、新生児から高齢者まで全ての年齢層にわたり、救急外傷、スポーツ外傷・障害、先天性疾患、加齢に伴う変性疾患、炎症性疾患、代謝性疾患、骨軟部腫瘍など、多種多様な疾患を対象とします。本プログラムでは、それぞれに診療の特徴を持つ熊本大学病院と関連教育施設をローテートすることで、整形外科全般にわたる知識と技術を身につけ、日本整形外科学会専門医の取得に備えることができます。さらに、整形外科の中での専門診療の研鑽を積むことで各分野での専門医を目指すことや、大学院へ進学することで専門的な研究に従事することもできます。

本プログラムは、熊本大学病院整形外科と 16 の関連教育施設で構成されています。これらの関連教育施設は、いずれも 5～10 名のスタッフを有する日本整形外科学会認定研修施設であり、整形外科各分野での専門医も多数揃い、充実した研修を行うことができます。

本プログラムは、出身大学や初期研修施設に関わらず平等に運用され、また各人の希望に応じて多彩な進路を選択できることが特徴です。研修実施責任者は、本プログラムを構成する関連教育施設の代表者と専門修練プログラム委員会を組織し、本プログラムの管理運営に関する諸事項につき定期的に協議を行うとともに、常時プログラム参加施設と緊密に連絡を取り、専門修練教育の一貫性と内容の充実をはかっています。

2. 研修の目標

本プログラムの一般目標は、高度な専門的知識、診断能力、治療技術を持つ整形外科専門医を養成することであり、日本整形外科学会卒後研修ガイドラインで定められた到達目標に到達することを行動目標とします。

3. 研修の方略

専門修練期間は 4 年間とし、熊本大学病院整形外科での 1 年間の研修と他の関連教育施設での 3 年間の研修から構成されます。専門修練期間中は 1 年ごとに異なる 4 施設をローテートし、専門医として必要とされるすべての分野にわたる研修を行います。初年度の研修は熊本大学病院整形外科で行うことも、他の関連教育施設で行うこともできます。以下に、初年度の研修を熊本大学病院整形外科で行う場合の研修概略を示します。

[1] 1 年目の研修

1 年目は、熊本大学病院整形外科で基本的な診察法や検査法、運動器疾患の治療体系、手術前後の管理、基本的な手術手技やリハビリテーションなど整形外科医として必要な基本的な技能や知識を修得していただきます。専門診療グループ（下肢グループ、上肢・外傷・スポーツグループ、脊椎・脊髄グループ、腫瘍グループ）に所属して指導医（日本整形外科学会専門医）とともに診療にあたり、各専門診療グループを 2～4 ヶ月ごとにローテートします。1 年間で整形外科全般について幅広い研修を行うことができますが、特に整形外科診療の中で非常に重要な悪性骨・軟部腫瘍については、県下のほぼ全ての症例が大学病院に集中していますので、充実した研修が行えます。教室での診療・研究の内容についてはホームページ：<http://kumadai-seikei.com> をご覧ください。

[2] 2年目以降の研修

2年目以降は、16の関連教育施設で臨床研修を行います。関連教育施設では多数の臨床経験を積み、日本整形外科学会専門医の取得に必要な知識と診療技術を身につけていただきます。施設毎に診療内容に特徴がありますので、1年ごとに3つの関連教育施設（6～10名のスタッフを有する定研修施設を2年、5名～のスタッフを有する定研修施設を1年）をローテーションすることで、地域医療を含めて偏りのない研修ができるよう配慮しています。

[3] 大学院への進学

熊本大学病院整形外科では大学院での臨床研究、基礎研究を奨励しています。大学院への進学は専門医取得後に可能となります。大学院での研究テーマは各人の希望を尊重し、テーマに応じて基礎医学教室または整形外科教室で研究に従事していただきます。また、熊本大学病院整形外科や関連教育施設整形外科で2年以上の勤務実績がある場合、勤務を続けながら大学院で研究に従事することも可能です。

[4] 日本整形外科学会専門医の取得

日本整形外科学会に入会後4年を経過し、日本整形外科学会認定研修施設での3年間の研修、さらに定められた研修条件を満たした方は、専門医試験資格が取得できます。大学院へ進学した場合は、その在学期間も研修期間の一部として認められます。

[5] 地域枠

熊本大学病院整形外科では地域枠に対応したプログラムも作成しています。現在このプログラムで研修を行っている医師は、知事指定病院で勤務しながら整形外科専門医の獲得、または整形外科専門医資格の維持を目指すことが可能です。

[6] 専門医取得後、あるいは大学院卒業後の進路

専門医取得後、あるいは大学院卒業後は、大学病院や関連教育施設で専門診療の研鑽を積み各専門分野での専門医を目指すコース、関連教育施設で一般臨床を行うコース、国内外の研究施設や臨床施設へ留学し更に専門的知識と技術の獲得を目指すコースなどがあります。また大学院へ進学されなかった場合、臨床診療を行いながら学位取得（論文博士）を目指すこともできます。

4. 研修の評価

各年度終了時には、専門修練医は当該年度の研修内容をweb上の研修プログラムに登録し、各研修施設責任者および指導医の評価を受けます。研修実施責任者は、前年度の研修内容について検討し、専門修練医の次年度以降のローテーションや研修内容を決定します。なお、研修実施責任者は毎年1回、専門修練医全員と面談し、各施設での研修上の問題点や要望などについて各医師より直接意見を聞く機会を設け、専門修練の充実に反映させています。